

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100205		
法人名	株式会社ニッコー・ケイサービス		
事業所名	グループホーム紫陽花		
所在地	神戸市東灘区住吉山手2丁目11番26号		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町村受理日	平成27年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=289

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様個人を大切に、個人の意見、意思の尊重と共に自己決定を尊重するように努めています。施設内では、生活レクとして、利用者様各自が出来る事をスタッフと共に出来る場所をサポートしながら、お手伝い頂くように声掛けし、出来ないところは、出来るように誘導する。スタッフが手を貸す。利用者様に教えてもらう、手伝ってもらうことで助かった、利用者様がまだまだ出来る、役に立てるという気持ちを持ち続けてもらえることを支援している。年齢と共に外出することが億劫になり、外出したくなる気持ちを日々の日課として、施設の近くをお散歩することを徹底しています。また、四季を感じるために行事、まつりごとなど、日常生活の中で従来、行われて来たと思われる生活習慣を大切に日々の暮らしの中に取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は六甲山系を間近に仰ぎ見る閑静な住宅地にあり、近くには四季の花々が楽しめる庭園の相楽園など恵まれた環境の中、6階建の既設建物を活用した福祉施設の3~4階にグループホーム紫陽花が運営されている。2013年に新たな事業所として開設以降、地域の一員としての役割を果たすべく地道な取組努力を積み重ね、年初には自治会加入を果たしている。理念の中で特に利用者の自己決定の尊重と個別対応に重点を置いた暮らしを支援し、健康の源である「食」を大切に支援を行っている。27年度からは医療連携体制の下に重度化・終末期に於ける看取り支援の取り組みも実施されることと相俟って、本人・家族の思いに寄り添ったケアの更なる質向上を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年7月以降に理念を作成し、スタッフに浸透すべく努力している。各階フロアに掲載している。	5項目の理念は、事業所運営健全化の一つとして意識付けると共に自己決定の尊重を大切にしたい取り組みに努めている。普段着などの服装一つに関しても利用者の思いを尊重し、理念に沿った支援を実践するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所とは、交流している。山田地区自治会員になりました。	地域の一員として受け入れられるよう地道な努力を重ね、平成27年1月自治会加入を果たした。介護リフレッシュ教室の開催、アロマ教室等をはじめ、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーターの講師をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者より出された貴重な意見をサービス向上に活かしている。	メンバーは利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員を中心に知見者として広域の「家族の会」世話人や他事業所からの参加もある。事業所からはヒヤリハットも含む報告等を行い、参加者全員がそれぞれの立場から思いや意見を出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密には、連絡していないが市町村との協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町が参加する地域ケア会議には積極的に参加し、事業所連絡会への参加要請も行っている。事業所の取り組みなどについての情報交換など市町担当者との連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を何度も行いスタッフに理解してもらっている。事務所が玄関にないため、仕方なく施錠している。	「拘束・虐待のない事業所を目指します」を理念の一つに掲げており、内部研修、外部研修に積極的に取り組んでいる。玄関施錠についても拘束対応との認識もあり、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めている。	身体拘束における身体的・精神的弊害等の理解を深め、自由な暮らしを支援するためのケアについての工夫等、職員間での共通認識を更に高める取り組みなども期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記のとおり、学習会を行うことで事業所内での虐待防止に努めている。	身体拘束と共に研修が行われ、理解を深める取組に努めている。スピーチロックも含め具体的にどのような行為が虐待にあたるのかを学び、適切なケアに努めるよう取り組んでいる。職員の精神的ストレスへの対策にも気を配るなどの配慮がされている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市成年後見支援センターのパンフ等を利用し、学習している。管理者等は研修に参加している。	併設の小規模多機能型事業所を含めて、制度利用者が数名おられ、成年後見制度の活用についての研修で学んだ内容が活かされている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書と重要事項説明書の十分な説明を行い、その後疑問点を尋ね理解、納得してもらっている。	事業開設以降、利用者が増加する中、利用に際しては契約関係資料に基づき、わかりやすく、理解がしやすいよう留意しながら丁寧に説明をしている。かかりつけ医や緊急時の対応など、医療面についても説明を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱等で意見また要望、運営推進会議等でご家族様が意見を述べられ、その場で検討したものを運営に反映させている。	玄関に設置している「意見箱」に投函された率直な意見の他、面会時や運営推進会議で意見、要望などを伺える機会を持っている。意見要望は全員で共有し運営に反映出来るよう取組んでいる。家族からは本人の様子に変化がみられるなど感謝の声も伺っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員が意見や提案しやすい環境づくりに努力している。フロア一会議等で聞き反映させている。	月1回のフロア会議や日々のミーティング等で意見を出し合い、常に前向きに話し合っている。月1回の給食委員会では「食事を大切に考える」理念に基づき検討している。管理者は職員からの提案や要望が出し易いよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働き甲斐のある職場環境条件の整備援助等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人のケアの力量を把握し法人内外の研修参加できるように援助等もやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加している。他のグループホーム主催の学習会にも参加。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話に傾聴し、容認することで信頼関係を築き安心して生活ができるように心がけている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話にも傾聴し、信頼関係を深める様努力している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自己評価をする項目に該当しない。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大人数の家族として据え日常的な生活作業を利用者様と一緒にいき食事等も職員と一緒に食べている。アットホームな雰囲気生活している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに本人を委せてしまわないようホームへ来所してもらうよう家族様に呼びかけている。墓参り、お正月、家族旅行等。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の人が来所しやすい環境づくり、また、生まれた場所、住み馴れた場所に本人と出かけ懐かしがられている。(教会の日曜礼拝に送迎している)	「茶道」の先生だった方にお弟子さんが面会に來たり、以前の職場で共に活動した馴染みの方が面会に來られるなど関係継続の支援が行われている。日本庭園で有名な相樂園には四季折々の催しを楽しみに出かけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の座席等も考慮し、仲の良い利用者様同士が楽しく生活できるよう心掛けています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してもこれまでの関係を断ち切らないよう心掛けていきます。違う施設に変わられた方に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様の希望、意向を把握し、それに応えられるよう個別対応しご本人本位に努めています。	利用者とのコミュニケーションを大切に、会話の中からキーワードをつかむように心掛けると共に家族からも情報を得るようにしている。利用者の状態によっては、過去の思い出を語っていただくことで、落ち着かれるなど、思いや意向を把握することで、心地よく過ごしていただくよう努めている。	利用者一人ひとりについて、本人本位の視点や情報を探り、利用者の抱えている思いの把握のためのツールの一つとして、センター方式の活用によるケアの取組を提案したい。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ馴染の暮らしが継続して頂けるよう生活歴の把握等に努めています。(教会の送迎)		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った一日の過ごし方(個別に対応)してもらっている。ナース、スタッフで状況を要観察することで心身状態が残存能力の把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様、医師、看護師、スタッフ等で話し合い現状に即した介護計画書を作成しています。	月1回、利用者毎の状態を話し合い、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら現状とかみ合った計画書作成に留意している。アセスメントで把握した内容(教会への礼拝等)を介護計画に反映させた取組を行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念に囚われず、個別に柔軟な支援やサービスに心掛けています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の名勝(桜・梅)灘目の水車、保育所の園児との交流など楽しんでいただいている。近くの店での買い物も行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には24時間体制の医療をホーム提携の医師と行っている。従来のかかりつけ医へも看護師から、情報の提供等により信頼関係を作っている。この4月より医療連携する予定。	本人・家族の希望する従来からのかかりつけ医の受診を大切にしている。受診については家族が同行している。受診結果については家族の協力の下、適宜看護師と情報交換を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のその日の状態を把握し、変化があれば、随時、看護師へ連絡し、指示を求めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院に頻繁に通い医療機関との情報交換や相談することで安心した治療、早期退院できるように努力している。	入院に際しては、速やかに介護サマリーなど、事業所からの必要な情報の提供を行い、入院中は頻繁に見舞いに訪問し、都度、病院関係者との連携を図っている。退院時は看護サマリーによる状態の把握と共にスムーズな受け入れ体制に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	不十分ではあるが出来るだけそのような状態になる恐れのある利用者様の場合、ご本人、ご家族様、医師、看護師、職員とよく話し合い方針を支援に取り組んでいる。医療連携で看取りができるようになる。	訪問看護ステーションと覚書を交わして医療連携体制を整備し、関係者と相談の上「看取りに関する指針」及び「延命処置に関する同意書」を作成している。事業所内でも「看取りに関する指針」の共有と共に本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが看護師の指導を受けています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行っていますが地域との協力体制は、出来ていないが、消防署の指示に従い改善すべき点は改善している。	避難訓練は夜間想定を重視して行っている。AEDを設置し使い方の講習も行っている。消防署には災害援助者名簿を提出し、備蓄も整備している。地域との協力体制の充実は今後の検討課題。	火災・地震などにおける災害対策や避難対応については、近隣地域の理解協力なくしては、高齢利用者の安全確保は難しく、地域と一体となった災害協力体制構築についての取組を引き続き期待したい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは、その都度気づいた点をスタッフに注意するようにしています。	接遇研修を行い、利用者に対する言葉使いについては特に留意している。管理者は「自分が言われたらどう思うか」という視点に立って職員に注意を促している。一人ひとりの人権やプライバシーについて常に配慮するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるよう、促しながら声掛けするように指導していますが徹底されていないと思われる時があります。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その利用者様のペースや希望、要望に合わせ、個別対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を毎朝なさる人には、職員が手伝ったりしている。洋服に合わせ、装飾品も日によってコーディネートしています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もその利用者様の嗜好等を考慮して配膳、下膳しています。食事の盛り付け、片付け等は、利用者様と行っています。	利用者の持てる力に応じて盛り付け・配膳・下膳・洗物の作業を職員と一緒に、おやつ作りの時には調理にも参加してもらっている。利用者は職員と一緒に同じ食卓を囲みながら食事の時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を利用者様を要観察することで支援しています。声掛けしながら、楽しく食事できるように雰囲気作りを行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が誘導し、その人に合った口腔ケアに努めています。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その利用者様の排泄パターンを把握することで自立にむけた支援を行っている。リハビリから、布パンツへの変更に繋がっています。	利用者一人ひとりの排泄パターンと習慣を把握し、排泄の自立支援に向けて支援している。リハビリパンツから布パンツ着用に変更するなどの取り組み支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、天候の良い日は、散歩を行っています。体操により、お腹の体操をしたり、手の排便のツボマッサージ等も行っていきます。水分量を把握して調整しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制的に入浴してもらうのではなく創意工夫しながら入浴してもらっています。それでも拒否の有る時は、無理に進めず日を変更する等の工夫を行っています。	各階に個浴の設備があり、主に週2回～3回、午前中での入浴支援を行っているが、利用者の希望により毎日の入浴など柔軟に対応している。階下には足湯コーナーがあり、喜ばれている。柚子湯・菖蒲湯などの季節湯や入浴剤を使用するなどの工夫も見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、その方の生活習慣に応じた一日の生活を通してもらっています。調子を見て対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に薬の管理は看護師が行っていますが職員は、薬の用途、服薬に関しては、理解しています。看護師と情報交換しながら、医師の指示のもとに服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の力を考慮して対応しています。家事援助(炊事、洗濯、居室掃除等)		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日天気の良い日は散歩に出かけるように心がけています。その方の馴染みの場所に行くよう努めています。	事業所近辺を散歩したり、灘目の水車や深田池公園、六地藏あたりに向かい出向いていくこともある。また個人の希望で本屋や服の買物に行くなどの外出支援にも努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、お金が無くなった等があるので、基本的には所持されていないが預り金で買い物にでかけ本人がレジで支払うよう支援しています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には、電話していただいています。また、年賀状等をご家族様にだしています。知人からのハガキ等に返事を出すようにしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた飾り物を利用者様と作成し、飾ることで季節感を取り入れています。	居間・廊下・トイレ・浴室などの共用空間における明るさ・温湿度・におい・音は適切に管理されている。居間には利用者の書道・編み物作品が、廊下に事業所便り・利用者の塗り絵作品・クリスマスパーティ等の写真が飾られており、生活感と季節感があり、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様と隣に座われたり、居場所の工夫をしています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた家具等をそのままに居室に持ちこんで従来の環境で安心して過ごせるようにしています。	居室は明るく、清潔感がある。物入れ・時計・写真立て・椅子等の利用者の好みのものや使い慣れた物が持ち込まれており、居心地の良い生活空間になるよう配慮されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に手作りの表札。各、トイレへの案内、表示。居室の間取り図を貼ることで位置関係を把握して、自立した生活が送れるように支援しています。		